

2010年タコ

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	数 量					価 格					輸 入 国							
	漁獲	産地	輸入	東京	消費支出 生(千円)	在庫	産地	輸入	東京	消費支出 生(円)	モロ ッコ	モーリ タニア	セネ ガル	タ イ	スペ イン	ベト ナム	中 国	メキ シコ
21	45.6	5.3	56.2	13.2	845	19.9	369	495	656	1,398	13.8	26.5	1.1	1.4	3.0	3.7	5.5	0.1
22	40.3	6.2	44.7	11.6	832	18.5	337	573	695	1,341	10.8	16.2	1.2	1.0	1.8	3.4	9.4	0.1
%	88	117	80	88	98	93	91	116	106	96	78	61	102	70	58	91	170	106

輸 入 の 動 向

22年の輸入量は、4.5万トンで前年を下回った。これは主力の西アフリカ物(モーリタニア、モロッコ)の減少を反映したものである。

本年の西アフリカでの漁は、モロッコでのトロールの漁獲枠が1万トンで前年の1.2万トンをやや下回り、その配分は、船凍6,300トン(前年：7,560トン)、氷蔵船1,100トン(前年：1,320トン)、ダクラ陸凍壺2,600トン(前年：3,120トン)であった。夏ダコ漁は6月20日と前年より10日早い解禁となった。漁期は9月末までの期間であった。枠の減少とアソートも小型が1/3程度で大型主体であり、漁自体も1次航海は1トン以下、2次航海も時化も多く2,3,4,5番と大型が多く、品質的にも今一步であった。冬ダコ漁は不漁で北部漁場は6番以下1割程度と少なく、本年も成長が早く大型組成で始まり、大型が多かったのが特徴でEUからの買いも多く、サイズの的にも日本向けは少なかった。漁自体も低調な漁に終わった。

モーリタニアの冬ダコ漁は前年の11月に壺が解禁(漁期：5月15日まで)になったが、不漁のまま年を越し、船凍や氷蔵船のトロール漁も4月末まで漁が続いた。何れの漁も低調(陸凍で10トン/1日)で前年を大幅に下回った。サイズは3番から8番。モーリタニアの夏ダコ漁は壺漁が6月15日解禁。トロール船凍と氷蔵船は5,6月の2ヶ月の休漁で、7月1日解禁であった。漁は壺漁が開始の2週間は1日30トン台、その後は20トン台と漁獲は落ち、昨年500トン台が続いた漁と比べ極端に悪かった。トロールは前年並みで良くもなく悪くもない漁で、アソートは6番主体に5,7番であった。

市況は、冬ダコ、夏ダコ漁とも予想以上に低調な漁となったこと、EUでの買い付けも再度始まったこと、一部商社の先行高値買い付けもあって、日本向けの現地価格の高騰の影響を受けて、大きく上昇した。特に冬ダコ漁(モロッコ)は、大型サイズ主体のアソートで対日向けは少なかったことなども影響している。したがって、輸入価格、消費地価格とも前年を下回った。

輸入国は、昨年が続いてモーリタニアが36%で前年(47%)を下回り、モロッコも24%(前年：25%)と何れも下回った。中国が21%(前年：10%)を大きく上回った。続いて、ベトナム、スペイン、タイと前年同様となっており、メキシコは原油流出の影響もあって今年も少なかった。

輸入価格は、695円と買付価格の上昇を受けて前年(656円)を上回った。

また本年も、マダコ、ミズダコ、ヤナギタコ等、国内外のタコ類の供給があり、国内需要に対応し、多様化しており、定着化してきている。

在 庫 量

本年の平均在庫量は、1.8万トンと前年（2万トン）をやや下回った。

越年在庫は1.6万トンで前年（2.4万トン）をかなり下回り、近年では最も少ない在庫となった。来年は消費マーケットからみるとややかなり少ない在庫となり、加工業者サイドからの製品値上げの要求がつよくなりそう。

消費地入荷量と価格

22年の東京の入荷量は、1.2万トンで輸入量の減少を反映し、価格の上昇も目立ち前年（1.3万トン）を下回り、消費地での取扱いも再度減少した。

本年は末端マーケットでは前半はまだ特売もみられたが、後半は小売価格の上昇もあって、特売は少なくなった。

家庭消費支出は、末端単価は極端な高値ではなかったことで数量、金額ともに伸びはみられず、やや減少した。

東京の価格は、695円で前年（656円）を上回り、輸入価格の上昇を反映した格好となった。